

貨物専用機の試行運航実施結果について

1 要旨・目的

広島空港において、貨物専用機の定期運航化に向けた試行運航を、事業者と連携して実施したことから、その結果について報告する。

2 現状・背景

- トラックドライバー不足による輸送力の低下など、物流に関する問題へ対応するためには、トラック中心の物流から、航空輸送など他の輸送モードへ一部転換していく必要がある。
- 広島空港において、貨物専用機による輸送体制を整備することは、県内企業や生産者の貨物輸送の選択肢を増やし、商品の販路拡大等にもつながることが期待される。
- 県は、貨物専用機による試行運航を実施する事業者を公募していた。

3 概要

(1) 内容

実際に県内企業等から預かった貨物を貨物専用機で輸送し、そのオペレーション体制や輸送時間、コストなどを確認した。

(2) 事業者

- ・ヤマトホールディングス株式会社
- ・日本航空株式会社
- ・スプリング・ジャパン株式会社

の3社が連携して実施

(3) 実施日

①令和7年1月16日（木） ②令和7年2月14日（金）

(4) 運航ルート・ダイヤ

北九州空港 ⇒ 広島空港 ⇒ 成田空港
(9:20 発) (10:10 着 11:10 発) (12:45 着)

(5) 輸送貨物

[貨物量]

1回あたり航空コンテナ5台分（約500kg）

[内容]

工業製品（自動車部品）、宅配便（常温の生鮮品含む）⇒成田経由で北海道へ輸送

(6) 結果と課題

- 試行運航便で貨物を輸送した事業者（荷主）からは、輸送時間・品質に対して、概ね高評価を得るとともに、定期運航化した際には利用したい旨の意向が確認できた。
- 県内には、関西国際空港や北九州空港を利用し、国内外に航空貨物輸送を行っている企業が複数あり、潜在的には、広島空港において貨物専用機を定期運航するのに必要となる貨物量が見込める可能性はあることがわかった。
- 貨物機の下部貨物室への搭降載について、既存のグランドハンドリング用機材により、問題なく行えることが確認できた。
- 課題としては、
 - ・貨物機の上部貨物室にコンテナを搭降載できる新たなグランドハンドリング用機材が必要となること
 - ・広島空港のグランドハンドリング体制が十分とはいえず、貨物専用機の運航は旅客機の発着が混み合う時間帯を避ける必要があることなどがあることが確認できた。

4 今後の対応

引き続き、事業者や広島空港運営権者と連携し、試行運航により判明した課題の解決に取り組み、貨物専用機の定期運航化に向けて取り組んでいく。